

# 点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■129■

9月もお祭りの季節だ。某民放の「お祭り男」

よろしく、出かけてみた。

特に興味深かったの

が、「日本のまんなか渋川へそ祭り」。由来はこ

うである。北海道から九

州までの最北端(宗谷岬)

と最南端(佐多岬)を囲

む円の中心が、ちょうど

渋川市だということだ。

なるへそ！

「日本のへそ」で、へ

そを出して踊ろうという

このお祭りに、大勢の

人々が集った。子どもも

大人も恥じらいを忘れて

踊りに興じる姿に、笑

## 「へそ」を探る

# 多様な声に向き合う

顔が絶えない。目の前を通り過ぎるたくさんの方へそを眺めながら、ふと、そのへそ、つまり「中心」

呂が蝦夷征伐の帰途に立ち寄った東山道群馬駅で、へそのような大きな石を目にした。曰く「京都までの道程のちょうど中間でこの土地は正に日本の中心。故にこの石を『臍石』と名付ける」と。そもそも中心とは何だろうか。ヒトの身体だと、

に至っては、主人公たちが大切にしている場所が中心になっている。「中心」は主観的な要素を多分に含むものなのだ。ひよつとしたら、「中心」は、自分で探し出すものなのかもしれない。

この先、日銀は、景気がこの「中心的な見通し」通りに推移するかどうかを検証しながら、金融政策を決定することになる。ただ、地域や業種によって景気の状態は多種多様なはず。だからこそ、

について考えを巡らせたい。

へそのほかに脳や心臓だと言われたとしても合点はいく。心・精神だつて中心たり得るかもしれない。「物事の中心」とも

政策委員9人の意見の「中心」として中央値を公表している。ただ、景気は生き物。全員の見通

自分は経営者や消費者の皆さんの生の声に真摯に向き合っていきたいと強く思う。

実は「日本のへそ」を称する街はたくさんある。日本列島の重心、人口分布の重心、子午線の交差点など。

ただ、渋川には言い伝えと絡めた奥深さがある。その昔、坂上田村麻

世相の中心、中心的な意見はまさにいま解説が難しい。少し古いが、映画

宮 将史(みや・まさふみ) 1974年、神奈川県出身。一橋大学院経済学研究科修士課程修了。2000年日本



銀行入行。24年7月から現職